

秋晴れの下、親子で稲刈り

ー渡島地協 アジア・アフリカ支援米稲刈りー

秋晴れの爽やかな天候に恵まれた9月28日（土）、七飯町中野にある水田では60名の親子が参加し、アジア・アフリカ支援米稲刈りが行われた。



4月末に多くの参加者で田植えが行われ、天候にも恵まれてすくすくと育った稲は黄金色に輝き、重く頭を垂れて、まさに刈り入れ時を迎えていた。

開始時間前の子供たちの楽しみは、既に借り入れを終えている水田で「カエル」探しや「トンボ」取り。あちこちではしゃぎまわる子供たちの声が響き渡っていた。

労農市民会議・向田事務局次長（全農林）の司会で進められたセレモニーは、残間議長（連合渡島地協副会長・情報労連）が冒頭挨拶を行い、「貴重な体験を通じて米や食料品の大切さを感じてほしい」と参加者に訴えた。連合・長谷川会長も「物を育てていく苦労や重要さをしっかりと受け止め、頑張ってもらいたい」とエールを送っていた。

水田提供者の池田氏から注意点と作業の段取りが説明された後、子供たちにも鎌が手渡されさっそく稲刈りスタート。

慣れない手つきで最初はぎこちない手つきであったが、5分もすれば要領を飲み込みスムーズな作業に移行、傍らで見守る親の顔が心配そうだった。



稲を刈る者、束ねる者、束ねた稲を運ぶ者、「はさがけ」する者と自然に任務分担が行われ、予想以上の速さで作業は進められていた。

強くなった日差しの下で汗だくで稲刈りをする子供たちの姿に親は目を細め、ハラハラドキドキしながらもしっかりと成長を感じ取っていたようにも見えた。

小1時間もすれば予定された以上に稲が刈り取られ、乾燥させるための「はさがけ」する場所が無くなるほどになり、今年の支援米稲刈りを終えることとなった。



終了後は、参加者全員で記念写真を写し、子供たちにはお菓子の詰め合わせがプレゼントされ、昼食タイムに移行。

昨年同様に青空の下で行われた昼食・交流では、前日から事務局全員で真心込めて作られた「豚汁」の大鍋が登場し、あぜ道にゴザと机を並べて作られた「臨時食堂」で配られた。

汗をかいた後の弁当と豚汁とジュースの味は格

別で、また秋の温かい日差しの下、親子で一緒に食べる楽しさも加わって、より以上に美味しく感じていたように思われた。中には、2度のお代わりをし、都合どんぶり3杯を平らげる参加者もいた。

今回刈り取った米は、10月5日予定されている「大10回 食と環境まつり」において出荷式がおこなわれ、アフリカへと送られて、田植え・稲刈りに携わった多くの愛情がこもった支援米として任務を果たすことになる。